平成29年度　最終報告書

石川県立金沢錦丘中学校

重点指標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	結果	分析（成果と課題）及び改善策
1	中高一貫教育校の特長を生かし、学び方や生き方の質を高め、一人一人の力を最大限に伸ばすための工夫・改善を図る。	1-1	中高一貫教育校に学ぶ生徒として誇りを持ち、気持ちの良い挨拶と礼儀・礼節を大切にするとともに、時間や期限を守ることを通して、社会に通用する人材を育成する。	誰に対しても、自分から気持ちの良い挨拶ができている。 肯定的評価が A80%以上　B70%以上　C60%以上　D60%未満	生徒アンケート 肯定的評価76% 【判定:B】	様々な場面で、教師と代表生徒が挨拶運動を行っていると、多くの生徒は気持ちよく返してくれるのだが、自分から進んで挨拶できない生徒も多い。来校者に対する挨拶はある程度できているのだが、日頃一緒に過ごす仲間や先生方への挨拶が弱いと思われる。後期はボランティア挨拶という新たな仕掛けを取り入れた。今後もあいさつ運動などの仕掛けの強化とともに「なぜ挨拶をしなければならないか？」等の心の指導をしていくことが必要である。
				提出物や課題は、期限を守って提出している。 肯定的評価が A90%以上　B80%以上　C70%以上　D70%未満	生徒アンケート 肯定的評価85% 【判定:B】	今年度から導入した「フォーサイト」（生活ノート）や家庭学習における「TO　DO　リスト」により、生徒は、見通しを持って家庭学習に取り組むようになり、一定の成果が見られる。しかし、学習内容が難しくなるにつれ、1年生の提出状況が悪くなってきた。今後は、学習面談を行うなど、個別の指導も含めて粘り強く取り組む必要がある。また、教師がお膳立てしすぎる課題も見受けられるので、取り組みを検証し、改善を図る必要がある。
				錦中生としての自信と誇りを持ち、時間を守り、学校内外を問わず正しい身なりをしている。 肯定的評価が A95%以上　B90%以上　C85%以上　D85%未満	生徒アンケート 時間　肯定的評価94% 身なり　肯定的評価93% 【判定:A】	「正しい身なりをし、ルールを守って生活している」を肯定的に回答した生徒はほとんどで、おむね規範意識は育っていると考えられる。今後もきまりを誠実に守ることができるように継続的な指導を行う必要がある。
		1-2	健康な生活の維持向上に努めるとともに、部活動を通して心身ともに逞しい生徒を育成する。	規則正しい生活をするとともに部活動を通して心身ともに逞しくなってきている。 肯定的評価が A90%以上　B85%以上　C80%以上　D80%未満	生徒アンケート 肯定的評価87% 【判定:A】	オフシーズンや3年生の第一線から退いた影響もあり目減りはしているものの、90%近くの生徒が部活動を通して心身ともに成長していると評価している。また、保護者アンケートでも肯定的な評価が90%近くで、保護者も、部活動を通しての生徒の人間的な成長に対して評価していることが分かる。
		1-3	中高一貫校のメリットの1つである時間のゆとりを生かし、資格取得や各種コンクール等への積極的な参加を促し、自ら学び、創造性を伸ばそうとする生徒を育てる。	英検の取得率（4級は中2、3級は中3、準2級は高1レベル） 1年　2年　3年 A4級55%以上　3級60%以上　準2級50%以上 B4級50%以上　3級50%以上　準2級40%以上 C4級45%以上　3級40%以上　準2級30%以上 D4級45%未満　3級40%未満　準2級30%未満	1年　76%【判定:A】 2年　82%【判定:A】 3年　60%【判定:A】	英語は国レベルで強化が進んでおり、今年度も英検の全員受検に取り組んだ。英語教室に目標を掲示したり、英語の時間に指導したりするなど、少しでも上の目標が達成できるように取り組んだ。 その結果、1、2年生の取得率が、昨年度の同時期に比べて10ポイント以上上がった。
		1-4	朝の全校読書に取り組み、読書の習慣化を図る。	読書の時間は集中して読書しており、普段でも読書に親しんでいる。 肯定的評価が A85%以上　B80%以上　C70%以上　D70%未満	生徒アンケート 肯定的評価72% 【判定:C】	全学年で朝読書に取り組んでおり、図書委員会による「ブックトーク」など積極的な取り組みも見られている。朝の時間はどの学年も静寂のなか読書をしている。今後は、読書に対する意識の向上を図るために、図書委員会や国語を中心に読書に取り組むことを推進したりするなど読書活動を充実していきたい。
		1-5	望ましい人間関係づくりといじめを見逃さない学校づくりに取り組み、問題があれば組織的に対応する。	「学校が楽しい」と感じる生徒を増やせるとともに、生徒観察や定期的なアンケート等をとおして実態把握に努め、小さな変化にも組織的に対応している。 肯定的評価が A100%　B95%以上　C90%以上　D90%未満	教職員アンケート 肯定的評価100% 【判定:A】	毎月の迷惑調査、年二回の生活アンケートで生徒の声を拾い、些細なことでも見逃さない体制ができている。担任、教科担任、学年主任、生徒指導、教育相談、部活顧問が密に連絡を取り合うことで、迷惑行為の早期発見ができている。また、行為が見つかった後の指導も、組織的に対応し、保護者に対しても丁寧に対応している。

学校関係者評価委員会の評価	判定基準はどうなのか。他の中学校や全国的に比べてみるとよい。グローバルな視点も必要。提出物に対する意識にばらつきが見られるが、与えられた課題をやっていくのが力。もう少しやっていけるように、個に応じた指導を継続してほしい。
学校関係者評価委員会の評価評価結果を踏まえた今後の改善方策	評価基準については、全国の中高一貫教育校の学校評価を参考にし、評価の妥当性について考えていきたい。 課題提出については、来年度以降、生活ノート「フォーサイト」や「To　Do　リスト」の取り組みの改善、個人面談や教科面談によって内面的な成長を促し、改善を図っていきたい。

重点指標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	結果	分析（成果と課題）及び改善策
2	学校研究のより一層の深化・充実を図るとともに、自律的な学びを通して、たくましさと粘り強さを伴った確かな学力を育成する。	2-1	生徒に授業の大切さを伝えるとともに、「分かる楽しさ」「できる喜び」「学ぶ面白さ」が味わえる授業づくりに努める。	教材研究に取り組み、「授業が良くわかる」と回答する生徒を増やせている。 肯定的評価が A90%以上　B80%以上　C70%以上　D60%未満	生徒アンケート 肯定的評価95% 【判定:A】	付けたい力を明確にした教材研究と、生徒をやる気にさせる指導・評価計画・テストの作成を目標に先生方が授業改善に取り組んでいる成果が出ている。今後は生徒たちに見通しを与え、自律的な学習者に育てて行くことが目標である。
		2-2	付けたい力が効果的に身に付く言語活動を設定したり、ICT活用を推進したりする。	授業で生徒の間で話し合う活動がよく行われ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。 肯定的評価が A80%以上　B70%以上　C60%以上　D60%未満	生徒アンケート 肯定的評価85% 【判定:A】	自分の考えを発表したり、グループ活動などで話し合う活動は大切であると96%の生徒が考えており、学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることができていると89%の生徒が答えている。各教科において、学習の目標や狙いを達成するために、効果的にグループやペアでの活動を取り入れてきていることが評価されている。ただ、その場合でも個人思考の場面が足りなかったり、最後の全体での意見交流（振り返り）がなかったりするなど、まだ課題が見受けられる。ICTの活用については教職員の意識も高まってきて、タブレット、プロジェクター等の使用頻度もあがってきている。
		2-3	基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、教えきる、学びきる指導を行う。	教えきる、学びきる指導を通して、学力推移調査や定期テストにおいて、下位層を減らすまたは増やさないことができている。 肯定的評価が A80%以上　B70%以上　C60%以上　D60%未満	教職員アンケート肯定的評価79% 【判定:B】	生徒に取り組ませる各教科の課題は、「必須課題」と「選択課題」に分けて、生徒の能力に応じて選べるようにしている。必須課題への取り組みは徹底しやすくなったが、まだ改善の必要があるので、今後も取り組みの検証及び改善を継続していく。教師アンケートの結果が前期に比べてポイントが下がっている。要因としては、学習内容が難しくなったことによる1年生の学習状況によるものと考えている。第2回の学力推移調査ではある程度の成果が見えているので、今後は、個人面談や学習面談を積み重ね、個人への支援を充実させていきたい。また、冬休みなどの補習や3年生のゼロ学年の取り組みなど、各学年で工夫が見られるので、今後の成果につなげていきたい。
		2-4	論理的な思考力・表現力を育成するため、根拠や筋道を明確にして、説明や論述をさせる指導を行う。	考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるよう指導し、生徒の「論理的な思考力・表現力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A80%以上　B70%以上　C60%以上　D60%未満	教職員アンケート肯定的評価100% 【判定:A】	考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるよう指導することは、本校が指導の重点として継続してきたことである。どの教科でも論理的思考につながる言語活動の工夫・改善が継続して行われ、生徒の論理的思考力を伸ばすことができている。
		2-5	批判的思考力を育成するため、課題設定、発問、学習形態等を工夫する。	多面的・多角的に考察する言語活動の充実を図り、生徒の「批判的思考力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A80%以上　B70%以上　C60%以上　D60%未満	教職員アンケート肯定的評価89% 【判定:A】	これまで「多様な観点から考察する力の育成」を研究の柱としていたが、その成果がでている。今年度はそれに加えて生徒の「批判的思考力」の育成を目指している。課題設定、発問、学習形態等の工夫のさらなる研究の必要がある。
		2-6	高校の学習内容を視野に入れてた発展的課題に取り組むことで、目的意識や向上心を高める。	6年間の系統性を踏まえ、それぞれの教科の指導を行っている。 肯定的評価が A80%以上　B70%以上　C60%以上　D60%未満	教職員アンケート肯定的評価95% 【判定:A】	中高一貫教育校として、各教科において高校との連携を模索する取り組みが増えてきている。しかし、6年間の系統性を踏まえてという視点においてはまだまだ課題が見られる。数学科、英語科においては、教育課程の編成を踏まえたPTは作られたが、他教科においても、教科部会の交流を図るなど、今後の協力体制の構築が必要である。
		2-7	自律的な学習習慣が身に付くよう指導・評価計画とテスト作成を工夫する。	計画的に学習を進め、週あたりの家庭学習時間の目標を達成している。 肯定的評価が A80%以上　B70%以上　C60%以上　D60%未満	教職員アンケート肯定的評価95% 保護者アンケート肯定的評価73% 生徒アンケート肯定的評価71% 【判定:B】	教師は週の学習時間の集計をさせたり、生徒の「フォーサイト」（生活ノート）などで学習習慣が定着していると評価しているが、保護者や生徒はまだ「学習習慣が身についた」とまでの評価はしていない。今後も課題の量や取り組ませ方を工夫し学習習慣の定着につなげたい。

学校関係者評価委員会の評価	金沢錦丘中学校の授業は県の最先端のものである。今後も研究を深め、発信していってほしい。
学校関係者評価委員会の評価評価結果を踏まえた今後の改善方策	授業研究の取り組みについては、今後も、学校研究を通じて研鑽を図り、教師一人一人の力量を高めていき、県内に発信していきたい。

重点指標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	結果	分析（成果と課題）及び改善策
3	道徳教育やキャリア教育の充実及び積極的な生徒指導の推進を通して、高い志と人を大切にする豊かな人間性、主体的に行動できる強い心を持った生徒を育成する。	3-1	道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて、理想の実現や人を大切にする心、より良い社会の実現を目指すなどの道徳性を育くむ。	道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて道徳教育を推進し、生徒が自己の成長や人を大切にする心が深まったことを感じている。 肯定的評価が A90%以上　B85%以上　C80%以上　D80%未満	生徒アンケート 肯定的評価81% 【判定:C】	道徳推進教師のリーダーシップのもと、一人一人の教師が道徳の授業をより大切にし、改善に努めてきた。また、研究授業、互見授業を通して、道徳の授業の質も確実に上がってきている。また、道徳通信を発行し、授業や学校の取り組みの様子を知らせることで、家庭との連携も深めている。
		3-2	総合的な学習の時間や特活の時間を中心に6年間を見通したキャリア教育を実践し、生徒の視野を広げ将来の夢や目標について考える取組を行う。	将来の夢や目標を持っている。 肯定的評価が A90%以上　B80%以上　C70%以上　D70%未満	生徒アンケート 肯定的評価75% 【判定:C】	各学年とも狙いを明確にし、それに沿って職場体験、修学旅行等の体験活動、キャリア講演会を計画、実施している。また、個人面談や先輩（高校生・大学生など）に話を聞く機会などを積み重ね、将来の目標を定め、それに向けて努力できる生徒を育てている。また、夢や3年間の学びの足跡を記録する「マイキャリア」を今年度より復活し、3年間の学びの足跡を残し、個々の成長をふり返させる手立てを取り入れている。
				将来の夢や目標の実現に向けて計画を立て、実行しようと自律的に努力している。 肯定的評価が A90%以上　B80%以上　C70%以上　D70%未満	生徒アンケート 肯定的評価59% 【判定:D】	今年度は、本校の中高一貫教育校としての原点回帰を図り、「キャリア教育」を根幹とした教育活動に取り組んでいる。中高一貫教育推進会議を設置し、多様な視点から取り組みを検証している。具体的な成果は十分にでていないが、今後は、具体的な取り組みを提案することによって、本校のキャリア教育の推進を図っていきたい。
		3-3	学級会活動や生徒会活動において、1年生から段階的に話し合い活動や自治的な活動に取り組ませ、自主的・実践的な態度を育てる。	色々な活動や取組に対して、自分で考えて自主的に最後まで粘り強く取り組んでいる。 肯定的評価が A90%以上　B80%以上　C70%以上　D70%未満	生徒アンケート 肯定的評価82% 【判定:B】	言われたことは確実にできるのだが、自分で考えて進んで行動することがなかなかできない。本校の生徒の大きな課題である。昨年度より、生徒に全校朝礼や行事の司会・運営をさせたり、ボランティアサークルを募集し活動させたりと、生徒自ら考えて行動する機会をつくってきた。今後もそのような機会をできるだけ設定し、生徒が能動的に行動できる様にしていく。
学校関係者評価委員会の評価		高校生や大学生の頑張っている姿を見せるのも大事。中学生だから主体性は持ちにくいが、夢を持つことは大事。大学生も持てなくなってきている。世の中の流れがそうで、希薄になってきているが、夢を持てば頑張りが変わる。働きかけや取り組みが大事である。				
学校関係者評価委員会の評価評価結果を踏まえた今後の改善方策		来年度は総合的な学習の時間の教育課程を見直すと共に、行事の見直しを行い、生徒一人一人が夢を持ち夢を育てるキャリア教育の推進が図れるようにしていきたい。また、キャリア教育自体の理解の向上を図るために、校内研修会を実施していきたい。				

4	学校経営について積極的に情報を公開し、安心して学べ、信頼され、県民からより選ばれる学校づくりを行う。	4-1	中高一貫教育校に対する生徒及び保護者の期待やニーズを分析し、より望まれる学校づくりを目指す。	中高一貫校の現状の公開に、積極的に努めている。 肯定的評価が A90%以上　B85%以上　C80%以上　D80%未満	保護者アンケート 肯定的評価88% 【判定:B】	各種通信、にしきネットにより、タイムリーな情報発信を心がけている事が評価されている。さらに、「学校は、公開週間や授業参観、保護者懇談等を通じて、積極的に学校公開に努めている」の評価も88%と一定の理解を得ている。今年度は、ホームページの更新の頻度も上がり、保護者がより知りたいと思われる情報を発信できるようにしている。今後も中高一貫校の現状を伝えられるように努力を続けていく。
				オープンキャンパスと学校説明会参加者数 A600人以上　B500人以上　C400人以上　D400人未満	春の学校説明会　178人 オープンキャンパス 250人 秋の学校説明会 210人 【判定:A】	今年度は、1学期中に学校長が旧第2学区を中心に学校訪問を行った。さらに、夏季休業中に管理職及び主任を中心に2回目の学校訪問を行った。特に在学生の多い小学校については、中学校教頭と高校管理職が訪問し、新たに作成した学校紹介を使い本校の魅力を伝えた。学校説明会は春と秋に2回実施した。今後も、中高一貫教育校としての本校の魅力が伝わるよう努めていきたい。
				適性検査の受験者数 A350人以上　B300人以上　C250人以上　D250人未満	適性検査志願者数 251名 【判定:C】	今年度は、小学校訪問、オープンキャンパス、春秋の学校説明会、昨年度の適性問題配付など、積極的に働きかけていくことにより、志願者数が増え、2倍を超えるまでに回復した。成果と課題を検証し、来年度に向けて取り組みの強化を図っていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		中高でPRしていくことは必要である。PRするには、自分たちが何を持っているのか洗い出しができる。振り返りができるという効果がある。これからもやっていってほしい。				
学校関係者評価委員会の評価評価結果を踏まえた今後の改善方策		本校の取り組みを検証して、本校のうりになることを今後もPRしていきたい。				